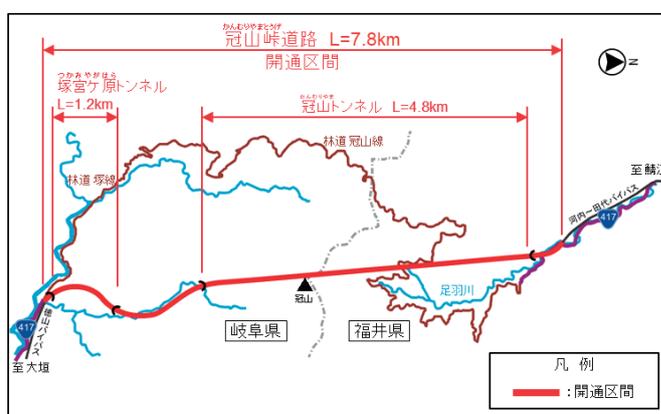


福井-岐阜をつなぐ新たな道路ネットワーク 「一般国道417号冠山峠道路」の整備について

国土交通省 近畿地方整備局 福井河川国道事務所

福井県と岐阜県を繋ぐ、一般国道417号冠山峠道路（7.8km）が、令和5年11月19日に開通しました。積雪時にも安定した交通が確保され、新たな玄関口となった池田町や揖斐川町の観光施設では賑わいが見られます。また、自治体同士や自治体と企業など、新たな交流も発生しており、今後益々の整備効果が期待できそうです。



テープカット・くす玉開披



通り初め

国道417号は、1982年に一般国道として指定されましたが、冠山峠付近は通行不能区間となっており、その代替路として、林道が活用されてきました。しかし、急峻な地形につくられた道路で、道路幅員が狭く、急カーブや急勾配が続いており、大雨などの悪天候時には、通行も困難な状況になります。また、冬期には、積雪により通行止めとなってしまうため、大きな迂回を強いられていました。



自動車の通行不能区間の状況



冬期通行止め状況（福井県側）

冠山峠道路は、このような課題を解消するため計画された道路ですが、急峻な山岳地帯であり、冬期は積雪が多く特別豪雪地帯の指定を受け、自然環境が厳しい地域です。また、トンネル延長が長く、土被りが最大700mに及ぶため、高度な調査設計や施工管理技術が必要です。このため、2003年度に国土交通省（福井河川国道事務所）による権限代行事業として着手しました。

近年、日本列島は気候変動の影響により気象災害が激甚化・頻発化し、福井県内だけでも、2004年7月の福井豪雨や、2018年2月豪雪など数多くの災害が発生しています。そのため国土交通省では、2021年4月に防災・減災、国土強靱化に向けた道路の5か年対策プログラムを策定し、その中で、冠山峠道路は2023年内の開通を目標に掲げ事業を進めてきました。用地取得の難航や地理的環境から、決して進捗は順調ではありませんでしたが、積雪が始まる前に開通を向かえることができたのは、5か年対策プログラムにより、重点的かつ集中的に工事を進めた成果です。

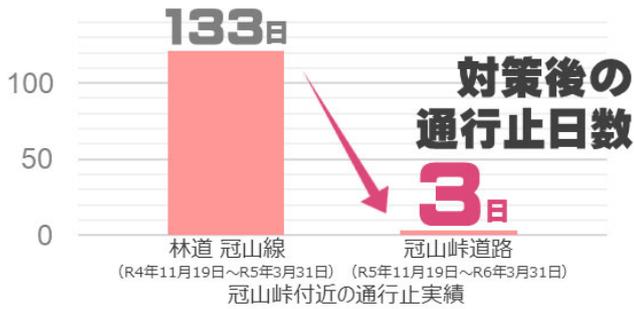


施工前の除雪状況

開通後、初めて迎えた冬期には、大雪警報が発令された3日間を除いて、安定した交通を確保することができました。

2022年8月の福井県南条郡南越前町周辺で発生した豪雨災害では、北陸自動車道や国道8号など日本海側のすべてのルートが通行止めになりました。県内が南北に分断され、物流も滞って生活に大きな影響が出ました。この他にも、過去10年間で同時通行止めは7回発生しています。

今後、同じような通行止めが発生したとき、冠山峠道路が代替ルートとして機能を発揮することが期待されます。



冬期の通行状況（開通後）

冠山峠道路以外にも、福井河川国道事務所では、防災・減災、国土強靱化を進めています。中部縦貫自動車道がその筆頭ですが、降雪時に AI 検知機能によってカメラ映像からスタック車両を早期発見できるシステム構築など、ソフト対策も進めています。

近畿地方整備局のウェブページでは、管内における防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策について、その効果事例を紹介していますのでご覧ください。



防災・減災、国土強靱化の効果発揮事例（近畿地方整備局）